

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2372600979		
法人名	有限会社 アール・ザ・エイチ		
事業所名	グループホーム虹の家		
所在地	愛知県豊川市牛久保町天王下6番地の1		
自己評価作成日	令和元年9月17日	評価結果市町村受理日	令和2年 2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2372600979-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2372600979-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階
訪問調査日	令和元年11月6日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

虹の家では、個人の生活スペースを尊重した生活ケアの取り組みとして生活の基本となる食事に力を入れています。時には庭の畑で取れた季節野菜も加わり、利用者様の希望メニューを取り入れながら三食手作りでバランスの良い食事を提供しております。また、利用者様の健康管理にも気を付けており、家人に毎月近況報告の手紙を出しています。病院受診もスタッフが同行しています。レクリエーションの時間は意欲的に活動できるように、個人に合った運動・脳トレを支援しています。季節感を出す為の行事、室内装飾などもスタッフと共に製作しています。定期的にボランティアの方の訪問があり、地域の方との交流機会も設けています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は周りに田畑の広がる静かな住宅地の中にあり、近くには小学校や保育園、喫茶店などがある。創設者は事業所設立時に、近隣の住宅を訪問し、施設の役割や目的、特長などを説明し理解を求めた上で開設した経緯があり、住民との交流は深く14年の歴史が刻まれている。「入居者一人ひとりの個性や思いを大切に」とする理念を職員皆が共有し、入居者のペースや能力に合わせた支援に取り組んでいる。四季折々の恵まれた自然環境の中で、散歩や買い物、地域での催し物や事業所内の催し物に参加しながら人々とふれあい、地域に見守られながら入居者は日々を過ごしている。職員と共に献立を考え、菜園で収穫をした野菜を取り入れたり、チラシを見て買い物をしたりして、三食手作りの食事が提供されている。入居者は明るく清潔感のある居間で、絵をかいたりテレビや新聞、雑誌などを見たり、楽しく会話をしながらゆったり過ごしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に理念を意識しながら利用者様の個性を尊重したケアを行っている。ケアの情報交換は、カンファレンス等で話し合い取り組んでいる。	理念を玄関に掲示し、誠意ある質の高い介護、穏やかでやさげのある暮らし、和をもってお互いを尊重する豊かな心を基本にして、「入居者が中心となる適切なケア」を目標に、一人ひとりの希望を尊重した支援をしている。毎朝の申し送り時や月1回のカンファレンスで確認し、行動の指針として日々のケアを振り返りながら共有と実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会、地区運動会、地区文化祭等に積極的に出かけ、地域との交流を持ちながら生活している。定期的に、ハンドケアセラピー、話し相手、レクリエーション等のボランティアの訪問を受けている。体験学習や実習生の受け入れも行っている。	町内会に加入し、地域の敬老会や小学校行事、文化祭に作品出展など積極的に参加している。「ふれあいの会」はチラシを地域に配布し、毎回大勢が集う恒例の催しとなっている。生活支援ボランティアによるレクリエーションや傾聴、社交ダンス、ハンドケアセラピーまた、中学生や高校生の体験学習や実習生も受け入れている。近隣の散歩や買い物などに出掛け、地域に住む人たちとの交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設のイベントに地域の人々の参加を呼び掛けたり、散歩、買い物、地域の催しものに出かけ、言葉を交わしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外出行事、季節行事や防災訓練等の活動状況や利用者様の様子を報告している。課題については話し合い意見をもらってスタッフ全員で取り組んでいる。	家族や民生委員、市議会議員、地域包括職員の参加を得て年6回実施している。事業所の運営や活動状況報告、入居者の生活状況の紹介している。感染症や防災訓練、ふれあいの会などについて協議している。意見や提案等はその場で話し合ったり、職員会議などで協議してサービスの向上に活かしている。会議に参加できなかった家族には、議事録を送付して会議内容を報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケアサービスの取り組みについては、運営推進会議で地域包括支援センターの職員に報告できている。市で実施する事業者集団講習会も毎回出席をしている。	担当窓口とは、申請等の代行業務、活動報告などを伝え良好な協力関係を深めている。運営推進会議に地域包括の職員が毎回参加し、情報やアドバイスを得ている。連絡協議会や事業者集団講習会にも参加している。また、「東三河ほいっぷネットワーク」の「電子連絡帳システム」を利用して市の情報入手や事業所間の情報共有、医療連携など協力体制を築きサービスに反映している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。	職員は常にアンテナを張り事前に対処できる体制を整え、個々の人格の尊重、人としての尊厳を大切に、身体や言葉、態度などによる拘束の排除に取り組んでいる。日中玄関は開錠して、入居者一人ひとりの安全と拘束感のない生活が送れるよう配慮している。拘束関係資料などは職員に回覧し、情報を共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はない。入浴時、着替え等、日々のケアの中でスタッフ同士で確認をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者がいない為、話し合いをしていないが、今後学ぶ機会を設け理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の説明に納得された事を確認した上で手続きを進めている。利用者様が安心して生活が出来るように家族から情報を得て話し合っている。改定の場合は書面にて確認を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、家族からの意見・要望はいつでも受け入れられる状況にあり、サービスの質の向上につながるよう取り組んでいる。	入居者からは日々のケアの中から思いを聞き、意見や要望などは連絡ノートに記録し、ミーティングで検討してケアに反映させている。家族とは、面会時や行事の折に意見や要望を聞き、ケアや業務改善に役立てている。入居者の様子を担当職員が毎月書面で報告し、年6回発行する「グループホーム虹の家かわら版」は行事の写真やコメント、予定などが記載され、家族に安心を届けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気づきの内容により、個別又はカンファレンス時に意見や提案に関する事を話し合い、サービス向上に反映している。	日常の業務の中や引継ぎ時また、カンファレンスなどで職員からの提案や要望を聞くようにしている。職員は年2回、自己評価を行い、自らの力量を正しく理解し、向上心を持ってより良いケアに繋げるよう努めている。管理者はパート職員を含め個人面談の他に随時話し合う機会をつくり、提案や意見、悩みなどを、業務や職場環境改善などに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見や気付きを検討して、いつでも職員が働きやすい環境で仕事ができる様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人に合わせた勤務の取り組みや職員間の協力で上達出来るように進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に出席した時に他の事業所の方と情報交換をしたり、研修会に他のグループホームの職員と話をする機会を設け質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の不安に対して時間の許す限り話を傾聴し、情報収集した内容はスタッフ全員で共有してサービスの向上に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、サービス担当者会議にて家族の要望等を取り入れ、サービスを計画に取り入れている。サービス内容に関しての状況は、来所時や状況報告の手紙で知らせている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、家族からの要望は実際の利用者様の状況に対してスタッフ全員で個人の情報を連絡メモに記入し、一番適した方法でサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・洗濯物干し・たたみ、食事の手伝い等と共にやっている。お互いが協力しながら生活できる様に考えを主張しあったり、話し合ったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様、家族の話を良く傾聴し、どちらにも無理のないような関係が保たれるように支援している。気付きの点がある時は連絡をとり話し合いの中で共有する事に心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の方にも行事に参加して頂いたり、来所時には居室にてゆっくり話をしている。地域の行事や図書館、買物等にも出掛けたりしている。	入居時にこれまでの生活歴を入居者や家族から聴き、大切にしていた人や場所、物事などの継続支援に努めている。友人や知人と旧交を温めたり、喫茶店や図書館、行きつけの美容院、公民館行事に出掛けるなどの支援をしている。家族とお盆やお正月を過ごしたり、お墓参りや旅行に出掛ける方もいる。日常の買い物や洗濯、掃除などの家事仕事、趣味の絵を描くなどを通して今まで培ってきた経験を日常に活かせる環境を整えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが調整役となり、おやつやレク、散歩時などお互いが交流できる様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても相談等があれば今まで通りと同じように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人をとりまく人々から情報を得て、本人の生活意欲向上につながるように計画に取り入れ対応している。外出行事など本人に合わせて行動している。	入居者の気持ちに寄り添い、些細な変化を見逃すことがないように心がけたり、日常のさりげない会話などから思いや希望を聴き、記録して職員間で共有しケアに繋げている。個々の状態に合わせて、居室などの落ち着ける場所やゆっくりとした時間の中で聴くようにしている。思いの表出の少ない方は、身振りやうなづき、表情から把握したり家族や知人から話を聞いたりして本人本位に検討をして、思いに寄り添う支援に努めている。	入居して日が浅いことも要因として考えられるが、女性優位の生活環境の中で男性入居者が、何がしたいのか、どのように過ごしたいのかを職員が把握して共有し、遠慮なく、自分らしい暮らしができるような居場所作りを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や今までのサービス利用関係者より情報を得た中で、スタッフ全員が日々の暮らしの中で関わり合いを持ちながら把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の利用者様同士の会話や、連絡ノート、記録により、スタッフ全員が共有して把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、担当スタッフ、ケアマネの参加で担当者会議を開催し、意見を出し合って現状に合った無理のない計画を立てて見直し、モニタリングも行っている。	日常の様子や身体状況の変化の記録をもとに毎月のカンファレンスで話し合い、職員全員が情報を共有しながらケアに取り組んでいる。3か月に1回、健康面や食事、日常生活などの変化や問題点についてモニタリングを実施している。担当者会議では日常のケアから得た情報や意見や課題について協議し、入居者、家族の意向や医師や看護師などの意見等踏まえながら現状に即した介護計画を作成している。状態が変化した時は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルがあり、バイタル、食事量、入浴、排泄、面会、外出記録、特記事項等にてスタッフが共有して具体的に書いている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、家族のニーズに対応して現状に合った対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの訪問を受け、リラックスした楽しい時間を過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時の説明、確認をする事で納得の得られた病院を受診している。家族の都合により、スタッフが同行している方が多くなってきている。	入居時にかかりつけ医か提携医の希望を聞いている。かかりつけ医の受診は家族の協力を得ているが、家族の都合により職員が同行支援をする方が多い。内科や歯科の提携医による医療体制が整えられ、受診が難しい方は往診で対応している。身体状況に変化があった時や緊急時は、主治医や提携医による連携体制のもと、速やかで適切な医療が受けられるようにしている。また、電子連絡システムの利用により医師との連携や迅速な対応に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で体調変化に気を付けているので早期発見が出来ている。状態によりその日に受診対応して、申し送りによりスタッフ全員が共有している。受診が難しい時は往診に来て頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時に付き添ったスタッフにより医師からの情報を得ており、記録よりその時点の連絡を全スタッフが共有できる。病院より連絡が入った時は出掛けて説明を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の説明にて確認を取っている。急な体調変化等に対しては、家族と話し合い、最良の方法で取り組んでいる。看取りについては訪問医師、家族との意向に寄り添って取り組んでいる。	入居時に、重度化した場合や終末期についての説明と指針を明示して家族の同意を得ている。重度化する可能性がある場合や状態が変化した場合はその都度入居者や家族に希望を再確認し計画の見直しを行っている。家族と医師が直接話し合い、看取り支援となった場合には、入居者にとって最善の援助ができるように努め、希望に添う看取りができるよう支援をしている。職員のメンタル面についても配慮しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内での研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練を実施している。(火災、地震、水害)避難ルートはフロア、玄関に掲示してある。連絡協議会での合同災害訓練に参加している。また、消防からの防災に係る研修及び訓練を実施している。	年2回、昼間、夜間を想定した避難訓練や通報訓練を実施し、避難誘導や避難経路の確認、備蓄場所の確認などを実施している。入居者の防災用ナップサックや頭巾も用意されている。運営推進会議で防災についての話し合いがされ、地域住民の理解や協力体制作りにも努力をしている。備蓄品はリストにより管理され、入居者と職員分を含め水や食料など1週間分が用意されている。今年は大雨による避難勧告が発令されたことにより災害対策として帰宅可能な入居者は一時帰宅の措置を取った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の個人にあった声掛けをするように配慮している。他利用者様のいる場所でプライバシーに関する話はしないようにしている。	一人ひとりのこれまでの生き方を尊重し個々の生活スタイルを守り、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。日々のケアの中で、馴れ馴れしさや特に雑になりがちな言葉使い、声のトーンなどを統一したり、入居者それぞれの人間関係に配慮した座席の配置や脱衣場のカーテンの設置などプライバシーに配慮した対応に努め、入居者が傷つく事がないよう確認し合いながら支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己主張の出来ない人は、居室等でゆっくり話をして思っている事や希望している事が決められるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れはあるが、利用者様の体調、気持ちを尊重し、柔軟に対応する中で、個人のペースにあった生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品、衣類など利用者様個人の購入希望にスタッフが対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の摂取状態に合わせて、(量や形態)食べやすいように提供している。声掛けにてテーブル拭き、手の消毒スプレー等の作業への参加を促している。	毎日の食事は入居者のリクエストを聴き、季節の食材を取り入れて、今まで慣れ親しんできた家庭料理を、量や形状に配慮して三食手作りをしている。買い物に行ったり、菜園で収穫した野菜を職員と一緒に調理したり、おせち料理、誕生日のお赤飯やケーキなどを作り食べる楽しみが持てるような工夫をしている。保有能力に合わせて準備や盛り付け、片付けなどその人の得意分野を生かし、職員と一緒にやっている。毎週日曜日のおやつ作りや回転寿司などの外食も楽しみのひとつとなっている。職員も一緒に食卓を囲み会話をしながら楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定を実施、毎食食事量チェック、レク参加で活動量を把握している。水分量が分かるように個人のボトルを用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアをスタッフの声掛けで全利用者様施行している。夜勤帯で義歯を洗浄剤に浸している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックボードを利用し、食前又は食後はトイレ誘導をしてパターンを把握し、失禁減少に努めている。時間に合わせトイレ誘導をしている。	排泄チェック表から排泄パターンを把握し一人ひとりに寄り添い、さりげない声かけやタイミングを工夫してその人に合ったトイレ誘導に努めている。日中は自力での排泄を目指している。夜間でも、尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、丁寧な見守りの支援を行っている。男性用の小便器も設備され使い慣れた場所が選択できるように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、野菜、運動、牛乳など取り入れている。医師から指示の下剤使用者あり。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応曜日に分けて決めているが、清潔保持の為、夏場は殆ど全員が毎日入浴している。利用者様により個々の援助を行っている。	入浴は週2回を目安に行っているが、希望があればいつでも入浴できる環境を整えている。季節を感じるゆず湯やしょうぶ湯なども楽しんでいる。冬季は脱衣場の暖房機を利用してヒートショックに配慮したり、浴槽や浴室の清潔にも留意している。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様個人の意志で自由に過ごせるように支援している。利用者様の体調に合わせてスタッフが促す場合もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の担当者が服薬セットを任されている。受診時の記録にて症状を全スタッフが把握し観察した内容を記事に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人一人の持っている力を発揮してもらえるように促し、実施している。施行後は必ず感謝の言葉をかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	習慣として散歩に行っている。喫茶店、食事の買い物、図書館、催し物、行事等でも外出の機会を設けている。利用者様個人の買い物でスタッフ同行での外出もある。	日常的に散歩や買い物に出かけられる環境にあり、お天気の良い日には庭に出て日光浴や畑仕事、洗濯物を干したりして外気に触れ、季節の移ろいを感じ取れる機会を大事にしている。入居者一人ひとりの希望にそって、図書館や喫茶店、回転ずしなどの外出支援をしている。季節を感じる梅、桜、菖蒲、紅葉などのお花見や遠出の外出なども楽しみのひとつになっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要物品は預り金にて購入している。スタッフと同行しての個人の買い物も家族の依頼により預り金にて購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中見舞い、その他の手紙もスタッフ見守りで書き、郵送している。家人より電話拒否のある方がいるため、用事がある人は用件をスタッフが伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関より共有空間はバリアフリーとなっている。家庭の延長の雰囲気大切に個々がリラックスして過ごせるように心がけている。	採光や風通しの良い食堂と居間がワンフロアで、清潔感のある共有スペースとなっている。キッチンからは、入居者の動きや気配がよく見渡せる。窓からは、畑の野菜や庭木を眺め季節の移り変わりを感じることができる。壁面には、外出時の写真や季節を感じる作品が飾られ落ち着いた大人の空間になっている。入居者は、大きなソファや畳スペースでテレビを鑑賞したり、余暇の時間には、絵を描いたり、脳トレや新聞を読むなど入居者一人ひとりに合わせた居心地のよい環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座る場所が自然に決まっており、気の合う者同士、楽しそうに会話されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は今まで自宅で使用していた物を持ち込んで頂く様お願いしており、使い勝手の良いように入居時、家人と自由に配置している。	居室には自宅で使い慣れた筆筒や椅子やテレビを持ち込み、個々の状態に合わせてベットなどを配置して、安心できる環境作りをしている。また愛着のある手作り作品や水彩画、写真などを飾って落ち着いて過ごせるように配慮している。居室の清掃は、職員と一緒にやっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活ができるように、扉にトイレ、風呂等貼っている。安全に歩行、シルバーカー、車椅子移動もでき、スタッフが一目で見れるように配慮されている。		